

「学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査」へのご協力をお願い

本市では、つくばエクスプレス開業以降、守谷駅周辺や松並青葉地区など人口増加が続いており、子どもの数も増加しております。それに伴い一部の学校では大規模化が進み、特に黒内小学校では増加が著しく、早急な対応が必要となっております。一方で、人口の減少や高齢化が進んでいる地域では子どもの数が減少し、小規模化している学校も見られます。

こうした課題に、中長期的な視野で総合的に対応するために、守谷市立小中学校の適正な規模と配置を検討する指針として「守谷市立小中学校適正配置基本方針」を制定することとなりました。この基本方針策定にあたっては、専門家や先生方、地域の方々や PTA の代表の方などによって構成される審議会で検討を行いますが、それに加えて子育て世代の意見も十分に反映させたいと考え、今回アンケート調査を実施させていただきます。

お忙しいところ恐れ入りますが、調査の主旨をご理解いただき、ぜひ調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和5年●月

守谷市教育委員会

調査票記入にあたってのお願い

1. 調査票は、一般市民向けだけでなく、小学校2年、4年、6年、中学校1年、3年、及び未就学児の保護者の方も対象に配布しています。そのため複数の調査票がお手元に届く場合がありますが、その場合は、それぞれ立場(市民／保護者)として、お手元に届いたすべての調査票に回答ください。
2. 本調査は、無記名であり統計的に処理するため、回答者が特定されることはありません。また他の目的には一切使用しませんので、お考えのままをご回答ください。
3. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、●月●日(●)までにポストへ投函ください(切手は不要)。なお、オンラインによる回答も可能です。ご希望の方は下の二次元コード、または下記 URL よりアクセスし、●月●日(●)までにご回答下さい。

<https://questant.jp/q/C925TL50> 【仮】

QRコード

《調査についてのお問い合わせ先》

守谷市役所 教育委員会 学校教育課(担当:〇〇、〇〇)

☎ 0297-45-1111 内線:281

E-mail gakkou@city.moriya.ibaraki.jp

1. はじめに、あなた自身について、お聞きします。

【問1】それぞれの設問について、該当する番号に○をつけてください(①は郵便番号を)

①居住地	※郵便番号(下2桁)をご記入ください。また「〇丁目」がある方は下欄にご記入ください									
	3	0	2	-	0	1			丁目	
②年 齢	1. 20 歳代		2. 30 歳代		3. 40 歳代		4. 50 歳代			
	5. 60 歳代		6. 70 歳以上							
※③は該当する選択肢すべてに○を										
③中 学 生 以 下 の 子 ども の 有 無	1. 小学校入学前の子どもがいる				2. 小学生の子どもがいる					
	3. 中学生の子どもがいる				4. 中学生以下の子どもはいない					

2. 学校の「規模」について、お聞きします。

○国の指針では、学校の学年当たりの適正規模は、小学校が2～3学級、中学校が4～6学級とされていますが、現在市内の小学校では、児童数が少なすぎる「小規模校」、多すぎる「大規模校」が存在しています。(下記事例は令和5年5月1日付の数値、特別支援学級を含む)

- ・小規模校の例 「大野小学校」:8学級 (特別支援学級除きの通常学級:6学級:各学年1学級)
- ・大規模校の例 「黒内小学校」:44学級 (同上:35学級:各学年5～7学級)

○小規模校、大規模校であることによるデメリットとしては、以下のようなことが考えられます。

小規模校のデメリット	大規模校のデメリット
① クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい	① 一人ひとりの発表や活躍の機会が制限される
② 多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない	② 教職員が、一人ひとりの管理を十分にしづらい
③ PTA など、保護者1人あたりの負担が大きい	③ 教職員間での連絡調整が図りづらい
④ 人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる	④ 学級数が多く、体育館や音楽室などの利用で制約を受ける

○小規模校と大規模校に関する現在のあなたの考え方をお聞かせください。

【問2】小規模校となった場合、やむを得ず以下のような対応が必要となるケースがあります。この中から、あなたが最も望ましいと考える対応策をお選びください(○は1つ)。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 通学区域の変更で対応する | 2. 学校の統合を行う |
| 3. 他の学区からの通学を認める | 4. その他() |

【問3】大規模校となった場合、やむを得ず以下のような対応が必要となるケースがあります。この中から、あなたが最も望ましいと考える対応策をお選びください(○は1つ)。

1. 通学区域の変更で対応する	2. 施設の増改築で対応する
3. 他の学区への通学を認める	4. その他()

3. 学校の「配置」について、お聞きします。

○現在市内の9つの小学校と4つの中学校の学区は、各地域の児童生徒数などを踏まえて定めています。そのため、学区が広くなり、児童の通学時間がある程度長くなってしまいうケースもあります。通学時間や学校の適正配置などについて、あなたのお考えをお聞かせください。

【問4】小学生及び中学生が許容できる通学時間・通学距離は、どのくらいだと考えますか。(○はそれぞれ1つ)。

(小学生)

1. 10分以内	2. 20分以内	3. 30分以内	4. 40分以内	5. それ以上でも可
1. 500m以内	2. 1km以内	3. 2km以内	4. 3km以内	5. それ以上でも可

(中学生)

1. 10分以内	2. 20分以内	3. 30分以内	4. 40分以内	5. それ以上でも可
1. 500m以内	2. 1km以内	3. 2km以内	4. 3km以内	5. それ以上でも可

【問5】通学距離が長く、許容できる通学時間を超える児童生徒がいる場合、どのような配慮が必要だと考えますか(○はいくつでも)。

1. スクールバスを運行する	2. バス等の公共交通機関の利用を認める
3. 自転車の利用を認める(拡大する)	4. 通学距離が長くても徒歩で構わない
5. その他()	

【問6】学校の適正配置・学区の設定を検討するうえでは「①通学距離」、「②通学時間」、「③通学時の安全性」、「④自治会・町内会の一体性」、「⑤適正な児童・生徒数、学級数」などの要素を考慮していく必要があります。

①～⑤のなかで、あなたが最も重視すべきと考える要素、2番目、3番目、4番目に重視すべきと考える要素をお答えください (それぞれの回答欄に①～⑤のいずれかの番号を)。

最も重視すべき	2番目に重視	3番目に重視	4番目に重視
---------	--------	--------	--------

4. その他、学校に関することについて、お聞きします。

【問7】あなたは、最近1年間に、地域の小中学校にどのくらいの頻度で行きましたか。(○は1つ)。

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 週に1回～数回 | 2. 月に1回程度 |
| 3. 年に数回程度 | 4. 1回も行っていない |

【問7-2】※問7で1～3と回答した方のみ、お答えください

あなたは、どのような目的で学校に行きましたか。(○はいくつでも)。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 保護者としての子どもに関する活動 | 2. 学校行事 |
| 3. ボランティア活動 | 4. 地域のスポーツ活動・文化活動 |
| 5. 防災活動、災害時の避難 | 6. その他() |

【問8】あなたは、下記の切り口の面から見て、地域における学校の役割はどの程度重要だと考えますか。(○はそれぞれ1つ)。

切り口	大変重要	ある程度重要	あまり重要でない	全く重要でない
① 児童生徒の学びの場、放課後の居場所として	1	2	3	4
② 地域の防災拠点として	1	2	3	4
③ 地域のスポーツ活動の拠点として	1	2	3	4
④ 地域の文化活動・生涯学習活動の拠点として	1	2	3	4
⑤ 地域コミュニティの活性化の場として	1	2	3	4
⑥ すべての切り口を含めた総合的な面から	1	2	3	4

【問9】仮に、市内に「特別な教育に特化した公立の小中学校(例:国際的な感覚、グローバルな視野を育む学校、プログラミングなどICTに特化した学校、スポーツに特化した学校)」が設置された場合、「学区に関わらずにその学校へ通わせたい」という保護者のニーズはあると考えますか(○は1つ)。

- | | |
|----------|------------|
| 1. 十分にある | 2. ある程度はある |
| 3. あまりない | 4. ほとんどない |

【問10】学校の適正規模や適正配置について、お考えがあれば自由にご記入ください。

○質問は以上です。お忙しいところご協力をいただき、ありがとうございました。

○調査票は、同封の返信用封筒に入れて、●月●日(●)までに投函ください(切手は不要)。

オンラインで回答いただいた方は、提出は不要です。